

麻生すこやか通信

VOL. 33

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌 2018年1月



新年おめでとうございます。戌年の今年
は鼻を利かして上手に麻生を再生しようと
計画しています。昨年は訪問看護をスター
トし、少しでも退院後の生活の不安をやわら
げるよう在宅での生活を支援しています。
また、脊髄・脊椎を中心に脳血管障害、脳
腫瘍、頭部外傷など昨年の手術件数は647
件となり、右肩上がりの成績を残すことが
できました。患者さまの要望に応えるべく、
リハビリも年末年始休みなく続け、4月から
はリハビリの専門医も勤務する事が決まり
ました。救急患者さまの受入れも一昨年よ
り増加し、24時間断らない麻生が定着して
きています。迅速な診断と治療に加え、今年
1月から新たに統括診療部を設置しました。
新たな試みとして、救急患者さまの診断と重
症度の詳細なデータを統括診療部から発
信し、救急隊や関連病院との連携を強化し
ていきます。手術室には最新の道内初のカー
ルツァイス手術顕微鏡KINEVO900が稼働
しています。今までよりも画像が鮮明で、血
流も造影剤なしでよく見えます。

さらなる 麻生の 再生

理
事
長
斎
藤
久
寿

私事ですが、昨年体に不具合があり、休
養もかねて一時入院しておりました。その
際に患者さま第一の想いの大切さを痛感
いたしました。医療の質はもちろんの事、
その他患者さまの様々な要望に応えるべく
スタッフのスピーディーな対応、各部署間
の情報の共有や連携が非常に重要で、また
それにより利便性や効率も高まります。

麻生再生への情熱はスタッフにも浸透し
ています。重要なのが「セルフ・リーダシ
ップ」です。目的・目標に沿って、上司や先
輩の指示で動くのではなく、自発的に行動
し、自己コントロールして達成に導く。他者
ではなく自分自身をリードする力が求めら
れています。このような人材が麻生には多数
集まっています。Everything Hospital、患
者さまの様々な要望の実現にむけて、患者
さまの満足度重視の麻生の想いとこだわり
を具現化していきます。4月には診療報酬
改定があり、医療業界はますます厳しいこ
とが予想されますが、これからも地域の人
々に寄り添う信頼される病院をめざして、
スタッフ一丸になって励んでいきます。ご期
待ください。



くも膜下出血

前ぶれなく発症する突然の激しい頭痛、
いつもと違う頭痛は早めに受診を



副院長・脳卒中センター長 中村 俊孝

1989年北海道大学医学部卒業。同大学医学部脳神経外科入局。同関連病院勤務・米国留学。2002年からの旭川赤十字病院勤務時は上山博康第一部長の元、第二部長としてその技術を受け継ぎ多数の症例を経験。執刀医として年間手術件数300例以上、特に脳動脈瘤クリッピング術年間200例以上の実績があります。2010年より当院勤務。2013年当院副院長に就任。脳神経外科全般(特に脳血管障害)を専門とする。脳神経外科専門医、脳卒中専門医。

動脈瘤の破裂・出血によるダメージを最小限に抑えるのが治療の目的

くも膜下出血とは、脳を覆っているくも膜の下や、脳の奥の隙間で起こる出血です。外傷性による出血もありますが、8～9割は血管の枝分かれする部分にできた瘤(こぶ)状の動脈瘤が破裂することで起こります。特殊な例として、元々は血管に形状的な異常が明らかではないところに急激に発生する解離性動脈瘤や、例外的に脳動静脈奇型、脳腫瘍などで出血することもあります。

ほとんどは前ぶれなく、突然の激しい頭痛で発症し、実際の発症時の重症度はさまざまで、その約3分の1の人は即座に命を落としてしまいます。また3分の1の人は何らかの重篤な後遺症を背負うことになり、最終的に元気に退院できる人は残りの3分の1に限られます。そのため、治療は動脈瘤による破裂・出血による脳のダメージをいかに最小限に抑えるかが目的となります。最初の破裂によるダメージがゼロであれば新たな破裂を起こさないよう再破裂を予防し、ある程度のダメージがあってもそれ以上のダメージの拡大を防ぐための治療を行います。破裂前に見つかった場合も同様で、基本的に開頭術によって動脈瘤の根元をクリップという道具でつぶすクリッピング術と、カテーテルを血管に通してコイルで

動脈瘤の内部を詰める経皮的コイル塞栓術という方法があります。それぞれに長所と短所があり、当院では開頭手術を専門とする医師と、他院の血管内手術を専門とする医師とで協議しながら、一人一人の患者さまに最も安全で適切と思われる手術を選択し行っています。

ただし、くも膜下出血の治療はこれらの手術が成功してそれで終わりではありません。手術後に引き起こされる、脳浮腫や脳の血管が縮んで血流が悪くなり最悪脳梗塞を起こす脳血管攣縮(れんしゅく)、水頭症などの続発症に対して治療を続けることが大切です。

リスクファクターを見直す生活習慣の改善で増大・破裂を予防

くも膜下出血は、治療が遅れるほど再破裂の危険が高まり、出血が多ければ脳の2次的被害も高まるため、早めの処置が重要となります。しかし、極めてまれに全く頭痛のない人もいるほか、もともと頭痛を持っている人など、痛みの感じ方は人それぞれで、結果的に手遅れになる場合もあります。

初回の出血が極めて軽く自然に止血されても、一度破裂した動脈瘤では再破裂する可能性が極めて高く重症化します。出血しているかどうかは病院で検査をしなければわかりません。その意味では日頃から自分の体に気を配るなど、いつもの頭痛と違うと少しでも不安を感じたら、早めに脳神経外科を受診し、検査を受ける事をお勧めします。

そして、動脈瘤が見つかったからといっても全てが破裂するわけではなく、破裂する確率は1年間あたり1%と考えられています。動脈瘤ができる原因は正確に言えば不明ですが、先天的、あるいは後天的に血管の壁が弱い人で、高血圧や喫煙習慣、ストレスや過度の飲酒など、いろいろなリスクファクターによって動脈瘤が成長していくとも考えられています。その意味では、これらのリスクファクターを見直し、生活習慣の改善による健康管理によって動脈瘤の増大・破裂のリスクを下げよう心がけることも、くも膜下出血の予防という意味で大切と言えるでしょう。



術前(○で囲んだところが動脈瘤)



術後(緑色のものがクリップ)

感 染 管 理 室

ンクスタッフとともにさまざまな職種や部署と連携をしながら、院内感染対策の充実を目指し、日々実践を重ねています。

当院は急性期病床や回復期、包括ケア病床のほか、昨年6月には訪問看護室も新設され、在宅生活支援を強化する体制ができました。生活・療養の場の多様化によって、感染予防対策の面でも、近隣の医療機関や高齢者施設との連携が不可欠となっています。患者さまやご家族だけでなく、面会に来られる方々や職員を含め、地域の方々を感染症の危険から守ることを使命とし、日々の感染管理活動に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



院内ラウンド



当院の感染管理室は、院内における感染症の発生と拡大予防に関する専門部署として、2017年4月に設置されました。現在、医師1名、感染管理認定看護師2名、薬剤師1名、臨床検査技師1名が在籍しています。

感染管理室では、感染対策チーム（ICT）を構成し活動しています。活動内容は、週1回の院内ラウンドのほか、感染対策マニュアルの作成・見直しと周知、薬剤耐性菌が検出された場合の当該部署への注意喚起と感染対策指導、職員教育、抗菌薬適正使用の推進、感染に関する院内環境の改善や対策に必要な物品の検討など、多岐にわたっています。

感染症とは、病原微生物が原因となって起こる病気です。医療現場では、患者さまが病原微生物にさらされる危険のある処置やケアが行われているため、患者さまに安全な医療環境が提供できるよう取り組んでいく必要があります。感染管理室では、患者さまが安心して治療やケアを受けていただけるよう、感染リ

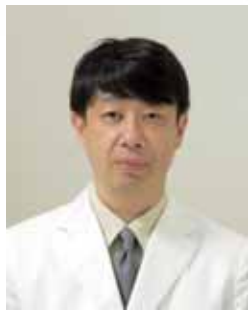
PICK UP!



感染管理認定看護師
東后 真奈美

医療安全管理部感染管理室 感染管理認定看護師の東后と申します。4月より感染管理室が開設され、中村副院長・久保科長・井須薬剤師・菅野検査技師・私の5名でICTとして院内感染対策に取り組んでいます。感染対策は安全で質の高い医療を提供する上でとても大切です。患者さん、ご家族、面会者、職員全員を感染から守るために、感染発生の監視、予防と対応、教育、システム構築等の活動を行っています。私たちの活動は、院内全体・多職種との連携が不可欠です。日頃から皆様とコミュニケーションを図り、信頼関係を築き上げていきたいと思っております。何かありましたら、いつでもご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。

ドクターご紹介



統括診療部長 安田 宏

本年1月より当院に赴任いたしました。前任地は西区の国立病院機構北海道医療センターで、脳外科手術治療全般に携わってきました。本院には、さかのぼること2004年から2009年末まで勤務しておりましたが、その時は移転前の旧病院でしたので隔世の感があります。今後は外来診療を中心として、地域連携の推進強化や、今後の医療情勢を見据えた業務展開などに尽力していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

1994年旭川医科大学卒業、北海道大学脳神経外科入局。道内の脳外科関連施設に勤務。脳血管障害、中枢神経再生、生体人工材料の基礎研究に従事。脳神経外科専門医、脳卒中学会専門医、脳卒中外科技術指導医、北海道大学大学院連携分野教員および客員臨床医師、医学博士（北海道大学6502号）



医師 白石 啓太郎

2017年10月より、富山大学より赴任いたしました。これまで、富山大学付属病院や関連病院で研修を積んできました。この度、当院で、脊椎・脊髄疾患の症例を中心に、数多くの手術症例を経験させていただく機会に恵まれ、非常に充実した日々を送っております。患者さんやそのご家族だけでなく、ともに働く職員の皆様にも喜んでもらえる医療者を目指しています。どうぞよろしくお願いいたします。

2013年 富山大学医学部卒業。その後、同大学脳神経外科入局。
同大学附属病院および富山県内の関連病院での勤務を経て、2017年10月より当院勤務。

編集後記

病院のロビー、待合所で不安な気持ちでいる患者さま、1階喫茶コーナーにあるホスピタルギャラリーをのぞいてください。植物、天体、風景など、春夏秋冬を感じる写真を展示しています。どこか懐かし、心がホッと和みます。カメラマン志礼正喜が見たその瞬間をお届けしています。少しでも、患者さまの心の癒いになりますように。患者さまの笑顔が私たちの宝物です。

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321(代表) FAX 011-731-0559
ホームページ <http://www.azabunougeka.or.jp>

交通アクセス

- 地下鉄：南北線 北24条駅下車
(2番・3番出口から徒歩約7分)
- 中央バス：「北21東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス：「北24東1」下車、徒歩約2分



携帯用サイト



当院への バス路線 中央バス

屯田線 02・新琴似線 09・あいの里・篠路線 22
篠路駅前団地線 36・ひまわり団地線 28
花川南団地線 14・花畔団地線 16・元町線 東70
石狩線・石狩線(トーマン団地行)・札厚線・札幌線(特急)

※お間違いのないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
新琴似線 09・花川南団地線 14・花畔団地線 16・石狩線・石狩線(トーマン団地行)
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。